

令和3年第2回北海道議会定例会 一般質問 開催状況 (環境生活部)

開催年月日 令和3年6月23日(水)
 質問者 日本共産党 菊地 葉子 議員
 答弁者 知事 鈴木 直道
 環境生活部長 森 隆司

質 問 要 旨	答 弁 要 旨
<p>二 女性支援について 新型コロナウイルス感染対策に伴う外出自粛や雇用不安による女性へのDVなどの被害に喫緊の対策が求められていますが、道内の実態をどう把握し、支援につながる取り組みをどのように進めるのか伺います。 コロナ禍で、雇用状況の悪化により収入が減少している家庭の児童・生徒や、バイトができずに生活が困窮する学生は、生活必需品である生理用品を購入することもできず、交換回数を減らしたり、トイレットペーパーを代用するなどの深刻な状況が顕在化し、内閣府が「女性活躍・男女共同参画の重点方針2021」に明記するなど「生理の貧困」が社会問題化しています。国は生理の貧困に対応した女性用品の提供などに予算を計上しましたが、困窮する若者をはじめ生理のある人への生理用品の無償配布が必要と考えます。また、公立施設や学校にも誰もが安心して使用できる生理用品の備えが必要と考えます。知事及び教育長に生理の貧困に対する認識と今後の取り組みについて伺います。</p>	<p>(環境生活部長) 道内20ヶ所の配偶者暴力相談支援センターにおける、令和2年度の相談件数は、前年度に比較し約8%増加をしております。相談内容は身体的暴力のほか、経済的・精神的暴力の相談も多く寄せられているところであります。 道では、「北海道配偶者暴力防止及び被害者保護・支援に関する基本計画」に基づき、相談や保護に取り組んでおり、昨年8月からは、国の交付金を活用し、道内の民間シェルターにおける相談対応にSNSを導入するなど、コロナ下であっても被害者が相談しやすい環境づくりに努めているところであります。 また、新型コロナウイルス感染症は、特に女性に「生理の貧困」を含め、様々な形で影響を及ぼしていることから、その背景や事情に丁寧に向き合うことが大切であると認識をしており、道では、新たな対策として、ニーズに応じた相談対応や居場所づくりなどの取組を行い、困窮する女性に寄り添いながら、孤独や孤立の解消に向けた支援に努めてまいります。</p>
<p>【再】二 女性支援について 知事に女性支援の中でも具体的な事例を挙げて生理の貧困への対策を求めましたが明快な答弁はありませんでした。 函館市では女性つながりサポート事業の予算を計上して相談窓口の強化、公立・私立・大学へ生理用品の配布を決めました。 コロナ禍での女性への影響の中でもとりわけ生理の貧困は喫緊の課題であることから国も財政措置を含めた対応を示したものです。 背景には様々な事情があるにしても生理用品を用意できずに困っている人への配布の必要性を知事は感じませんか。配布すべきではありませんかを伺います。</p>	<p>(知事) 道では、この度の、孤独や孤立を抱える女性に対する新たな対策を実施する中で、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響による「生理の貧困」などを含めた問題の背景や個々の事情に丁寧に向き合い、その課題やニーズをしっかりと把握をし、ひとりひとりに寄り添った支援に努めてまいります。 また、相談対応の過程で、継続的な支援が必要と判断する場合には、個々の事情に配慮しながら、生活面や心身の健康、経済的な悩みに応じ、支援窓口を紹介するなど市町村や民間の支援機関の皆様と緊密に連携をして取り組んでまいります。</p>